



書 評

麻酔科医のための体外循環の知識

川人 伸次・編

体外循環は心臓血管外科領域や救急集中治療領域において、必須の医療技術である。麻酔科医は実施者として時に直接的に、あるいは体外循環を用いた医療チームの一員として間接的に関わるが多い。しかし、十分なしかも最新の体外循環の知識が体外循環を用いた医療に関わるすべての麻酔科医に備わっているかという点も必ずしも現状はそうではないように推察される。そのような折に、麻酔科医にもっと体外循環の知識を学んでほしいという意図で書かれた本書の編集者の川人伸次先生は、長年日本心臓血管麻酔学会の学術委員として体外循環部門を牽引して来られた一人である。その川人先生が満を待して出版されたのが本書である。

本書の内容はというと、一見して非常に分かりやすい文言や回路図に溢れているのがまず大きな特徴である。章立ては体外循環の歴史に始まり、体外循環装置と操作の総論および、血液ポンプ、人工肺、心筋保護装置の詳細が述べられている。生理学的、薬理学的、生化学的理論が述べられた

あと、さらに、大動脈手術の際や、小児の人工心臓使用時の注意点、最近主流になりつつある低侵襲心臓手術 (MICS) を行う体外循環に至るまで詳しい各論が満載である。加えて、COVID-19 の流行により、使用が急増した ECMO や人工心臓の解説も最近の知識を学ぶことができるように配慮されている。本書が、心臓血管麻酔学会、体外循環技術医学会、心臓血管外科学会を代表する一流の執筆陣によって構成されていることも、大きな特徴かつ見事な多職種連携を垣間見ることができる。

まさしく本書はこれから体外循環に関わる麻酔科医や体外循環の知識を刷新したい麻酔科医には必携の書といえよう。

(北里大学医学部麻酔科学 岡本 浩嗣)

B5 判, 240 頁
2022 年 11 月, 定価 6,820 円
克誠堂出版

